

神奈川研究会 第 140 回 概要紹介 (詳細は会員ページアーカイブへ)

2023 年 4 月 11 日 (火)	
15:00~17:00	場所: オンライン
研究会 発表者: 宮本 演題: 自動車の未来 モビリティを取り巻く世界と必要な技術	
<p>課題の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・ MaaS Mobility as a Service・ 電動化・ 電池・ 自動化・ センサー・ 自動運転の制御・ コネクテッド・ 法整備 <p>発表者からのコメント</p> <ul style="list-style-type: none">・ 最近著しく報道の増えた自動運転や電気自動車について全体像を概観して、日本の産業として乗り遅れていないのか、なにが技術のターゲットなのか、どのような分野が攻める余地があるのかを調べた。・ その結果<ol style="list-style-type: none">1. 自動運転と電動化は車の両輪のように進展する。2. 自動運転化はセンサーの進歩と運転 AI の進化に依存するが、センサー搭載数の増加は、誤作動確率の上昇 vs 見落としの防止 のジレンマがある。3. 電動化はバッテリーの価格、安全性、航続距離などの課題が多い。また、希少金属についての経済安全保障の問題も存在する。この問題を解決する必要がある。4. 自動運転車が走り回る世界までには、法整備、道路インフラ、GPS など周辺の整備が必要である。 <p>といったことが明らかになった。</p> <p>それでも、電気自動運転車の社会インパクトは極めて大きいと考えられるので、今から対応しておく必要が大いにあると考える。</p>	